

# 障害者の就業安定へ



## 北区の農福連携事業開始

浜松市北区でサッカーを中心とした障害者スポーツ事業などに取り組むスクール「NPO法人 SV Norderstadt(エスファオ・ノルダーシュタット)」(茶山暁志理事長)が本年度から、障害者に農業の現場で活躍してもらう「農福連携事業」を始めた。県西部農林事務所、認定NPO法人オールしづおかベストコミュニティとの3者連携で、事業・雇用拡大を目指していく。

## 畑で農作業「楽しい」

スクールを通じた障害者たちが職場環境になじめず定職に就けない現状を打開しようと、茶山理事長が昨秋ごろ同務所などに相談し事業化した。自身が農業関係の仕事に従事していた経験もあり農業に着目したという。

現在はスクール生

と曾根さん(右)、曾根航さん(左)を雇用。既にジャガイモを育

て、同区三ヶ日町の魚

店に卸すなど実績も積んでいる。15日には同区細江町の畑で種から育てたキャベツを定植した。2人は「リラックスして作業できて楽しい」「良いものをつくり提供する実感がある」とやりがいを感じている様子だ。

茶山理事長は「2機の協力があつてこそ」と感謝し、雇用する2人には「仲間と一緒に楽しめている。自立するため、自ら立てる収入を得ることを学んでほしい」と期待を込めた。

キヤベツの苗を植える山下さん(左)

と曾根さん(右)＝浜松市北区細江町

(細江支局・吉沢光隆)

# 就労への歩み 農業で光



茶山暁志理事長㊨に見守られながら畑仕事をする山下莉奈さん㊧と曾根航さん＝浜松市北区

## サッカーチーム主宰・浜松のNPO 障害者を支援

知的障害のある人のサッカーチームなどを主宰するNPO法人「エスファオ・ノルダーシュタット」(浜松市北

区)は、就労の難しい選手ら

に法人が借りた農地で農業を

してもらう事業を始めた。す

ぐにジャガイモなどを収穫し

ており、選手たちは「リ

ラックスしながら働ける」と

好評だ。

(小佐野慧太)

山下さんはかつて園芸メーカーで働いていたが、「怖い人がいて、顔にまひが出るようになってしまった」と明かす。曾根さんも、通勤に手間かかる職場しか見つからず、生活のリズムを崩して離職を余儀なくされたという。

選手たちがなかなか就職に就けない現状を痛感した同法人の茶山

暁志理事長(写真)は、「サッカーチームと一緒に仕事ができてホッとす

る社会人チームや、知的障害のある人(36人)が所属するチームを主宰しているほか、子どもに向

けた。茶山さんは「販路の拡大が課題だが、売り方を工夫してみんなの自立を後押ししていく。農業とスポーツの力で、違いが輝く地域社会の実現を目指したい」と力を込めた。

ノルダーシュタットは2017年設立。Jリーグ参入を目指すサッカースクールなどを開いている。今のところ農福連携事業での働き手は一人だけだが、少しづつ雇用を増やしていきたい考えだ。

浜名湖サービスエリアや、畠のそばの無人販売所などで販売している。茶山さんは「販路の拡大が課題だが、売り方を工夫してみんなの自立を後押ししていく。農業とスポーツの力で、違いが輝く地域社会の実現を目指したい」と力を込めた。

## チームの2選手「仲間と一緒に ホッとする」

ノルダーシュタットは2017年設立。Jリーグ参入を目指すサッカースクールなどを開いている。今のところ農福連携事業での働き手は一人だけだが、少しづつ雇用を増やしていきたい考えだ。

浜名湖サービスエリアや、畠のそばの無人販売所などで販売している。茶山さんは「販路の拡大が課題だが、売り方を工夫してみんなの自立を後押ししていく。農業とスポーツの力で、違いが輝く地域社会の実現を目指したい」と力を込めた。

山下さんは「サッカーチームと一緒に仕事ができてホッとすめる。やりがいを感じる」とほほ笑む。

山下さんは、自身がかつて土地改良区に勤めていた経験から、農業に注目した。農福連携を推進する県西部農林事務所やNPO法人「オールしづおかベストコミュニケーション」に相談し、農業に取り組む福祉事業所などを視察。二千五百平方㍍の農地を借り、六月から取り組みをスタートした。

山下さんは、「サッカーチームと一緒に仕事ができてホッとすめる社会人チームや、知的障害のある人(36人)が所属するチームを主宰しているほか、子どもに向